

畑作技術情報

発行 令和2年7月9日
第4号
たいせつ農業協同組合
営農部 農産販売課
本所 営農センター 57-2357
支所 営農センター 87-4111

マメシンクイガに注意しましょう！！

マメシンクイガは近年多発傾向が続いており、適正な防除が行われていないほ場では甚大な被害を受けています。連作ほ場は被害を受けやすく、防除時期が遅くなるほど防除効果が劣り被害が大きくなるため、適期防除に努めましょう。産卵が可能となる「莢伸長始め」（およそ半数の株に2～3cmに達した莢が着いた時期）の確認をしましょう。開花始めから約7日後に「莢伸長始め」となり、その7日目頃が1回目の防除適期です。なお、上川中央部の「莢伸長始め」は7月下旬～8月上旬です。年次やほ場により生育に差がありますので、必ずほ場を観察しましょう。

表1 防除薬剤例

	薬剤系	薬剤名	希釈倍率	10a当薬量	使用時期 使用回数
1回目 (莢伸長始めから 7日目頃)	合ピレ剤	ゲットアウトWDG	3,000	33g	収穫7日前 3回
		トレボン乳剤	1,000	100ml	収穫14日前 2回
	ジアミド系	プレバソNF L5	4,000	25ml	収穫7日前 2回
2回目 (1回目防除から 10日後)	有機リン系	エルサン乳剤	1,000	100ml	収穫7日前 2回
		トクチオン乳剤	1,000	100ml	収穫30日前 3回

開花期の葉色が薄い場合

開花期になっても、大豆本来の濃い緑色の葉色となっていない場合は、根粒菌の着生不良が考えられます。5株程を掘り上げて、根粒菌の着生状況を確認します。10個以上の場合は追肥不要ですが、10個未満の場合は硫安 50kg/10a を大豆の上から散布して下さい。なお、露のある時は、葉やけの危険があるので、茎葉が乾いてから散布しましょう。

熱中症には十分注意しましょう

例年7～8月の農作業中に熱中症で亡くなる方が急増します。対策の1つとして、喉が渴いていなくても20分おきに休憩をはさみ、コップで1～2杯以上を目安に水分補給をしましょう。

表2

	開花始	開花期
平年値	7/15	7/17
本年	—	—

図1

